

## 持続可能な社会の実現を目指すために

粟井英朗環境財団とは

環境保全及び水資源保全を行うとともに、地域に密着して経済発展に貢献することを目的に、活動に取り組んでいます。

### 事業内容

豊かな自然環境と森が育む水資源を後世にも引き継ぐために

守  
る

### 環境保全事業

#### 森林整備保全事業

森林整備に取り組む団体を対象に広葉樹の苗木を公募募集しました。  
また、富士山麓の清掃活動を行いました。  
□2018年度活動実績 清掃美化活動の開催2回



育  
て  
る

### 環境保全活動普及・育成事業

#### 環境保全普及スタッフ等育成事業

環境保全部管理対策や、各種調査研究、普及啓発活動などを行うスタッフを育成しました。  
□2018年度活動実績 講座・視察の開催10回



#### 環境プログラム受託事業

環境保全に関わる教育活動や、自然体験教室などのプログラムを受託しました。  
また、環境プログラム体験イベントや、環境に関する講演会を開催しました。  
□2018年度活動実績 クリーンフットパスの開催10回  
体験イベントの開催8回 講演会の開催1回



## 環境保全活動への助成・顕彰事業

環境保全活動や地域振興活動に取り組む個人や団体を対象として、公募助成や寄付支援、顕彰を行いました。

## 2018年度公募助成事業実績

助成交付先 41団体

他 奨励交付先10団体

認定NPO法人 富士山クラブ	山梨県立富士河口湖高等学校	ハラウ フラ プメハナ
NPO法人 土に還る木森づくりの会	山梨県立吉田高等学校	「富士山おもしろオペラ劇場」準備委員会
富士山自然誌研究会	山梨県立富士北稜高等学校	富士吉田市文化協会
水村 春香	山梨県立ひばりが丘高等学校うどん部	望月 恭子
NPO法人 富士山自然保護センター	富士北麓科学塾実行委員会	富士吉田梅若薪能実行委員会
富士山を見て歩く峠道、若彦路街道古道を守る会	西桂子育てを支援する会	「河口湖ろうそく能」 蒼能会
奥河口湖 長崎山さくらの里づくり協議会	NPO法人 富士と湖とかかし里	富士五湖舞踊友の会
ふじみの会	公益社団法人 富士五湖青年会議所	陸奥部屋後援会富士北麓支部
明見湖里山フェスティバル実行委員会	一般社団法人 富士の国やまなし通訳案内士会	FUJISAN SEVENS 実行委員会
富士吉田杵子山パノラマトレイル大会実行委員会	西裏沸活プロジェクト 実行委員会	FJ アスリートクラブ
NPO法人 母さんの楽校	富士吉田口手づくり×古本市実行委員会	富士山・山中湖チャリティー駅伝実行委員会
富士吉田市ターゲット・バードゴルフ協会	LUXE(らぐぜ)	よい子の花火大会実行委員会
HOSTEL SARUYA	富士吉田防災士会	株式会社Civic Pride
富士山吉田口環境保全推進協議会	NPO法人 富士北麓まちづくりネットワーク	

## 2018年度環境保全支援事業実績

寄付支援先 3団体

一般社団法人富士山の天然水の聖地富士吉田市公民連携協議会(富士山の天然水の聖地 富士吉田市公民連携事業)  
富士吉田市 (富士吉田市立小中学校へのペレットストーブの導入)  
西桂町 (千本桜の里整備事業/町内河川清掃活動 等)

## 2018年度顕彰事業実績

受賞団体 2団体 受賞者 1名

顕彰事業 地域創生エッセイ大賞 明見湖里山フェスティバル実行委員会/西桂子育てを支援する会  
優秀賞 渡邊えりか

「信頼してこそ、人は尽くしてくれるもの」山梨県を語る時に、なくてはならない武田信玄公の言葉である。何をもって信頼と定義するかは様々であるが、私はこの「信頼」こそ、地域創生にとって、重要なキーワードであると考えている。

春はピンク色に染まった大地が芽吹き、夏の山々は青々しい緑に輝く。黄金色の葉がハラリハラリと風に戯れる秋が過ぎると、真白き富士が荘厳さを増す冬となる。自然に触れ、深い呼吸をして、また高速バスに乗り込む時間を迎える。そう、私は心の安寧をもたらす郷土を想い、山梨県と東京都のいずれにおいても仕事をしながら、二地域居住生活を送っている。

度々、利用する中央道は1982年に全線が開通すると共に、山梨県の雇用環境の向上をもたらした。しかし、国立社会保障・人口問題研究所によると、2040年の総人口は減少が続き、約66万6千人となることが推計されている。全国同様、山梨県においても人口減少の問題は顕著である。人口の変化は地域の将来にどのような影響をもたらすのか？既に周知されているが、今一度、整理してみようと思う。1つ目に労働力不足による地域経済の衰退。2つ目に老年人口の増加に伴う医療・福祉サービスの不足。3つ目に、若手世代の減少による文化継承のつまずき。そして4つ目に、子育て家庭の減少による次世代育成の崩壊。上述した4つの問題を抱える中、地域がより豊かに、活力あふれるために、定住人口の増加だけではなく、「二地域居住生活をライフスタイルとする人々を取り込むこと」を私は提案したい。

2014年に国で制定された「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、山梨県では「まち・ひと・仕事創生人口ビジョン」として、県とつながりをもつ人口を「リンゲージ人口」と定義し、定住人口とリンゲージ人口の連携を強化することによって、持続的かつ魅力的な県づくりを目指すことを宣言している。今やネットがつながる環境があれば、仕事や生活が手軽に管理できる時代である。二地域居住生活で、より充実したライフスタイルを送る設計図を提供できれば、山梨県に信頼をよせ、山梨県に尽くしてくれる多くの人々を取り込むことができるのではないだろうか。

では、二地域居住生活には何が必要か？まずは居住地である。毎回、宿泊先を探すのは当たり前だが居住生活とはいえない。居住とするならば、二地域居住者専用のシェアハウスや空き住宅を活用した賃貸物件の斡旋など、行政が企画し、不動産会社等で事業管理が図れれば、信頼性も高くなる。次に仕事だ。会社員でも第2の仕事を考えるご時世である。二地域居住先で仕事を持つことができれば、いずれは移住先に代わり、新たな定住人口の獲得につながるだろう。

長野県松本市では滞在型市民農園の導入により、首都圏のシニア層を中心に二地域居住希望率が高まっているようだ。これからの「二地域居住者の取り込み」には、シニア層だけではなく、多くの年齢層が関心をもつ二地域居住生活の仕組みを提供することが求められる。例えば、医療・福祉サービス事業のイベントや、次世代育成のための教育・文化活動ワークショップなど、二地域居住希望者を対象とした企画を開催する。山梨県を知り、地域住民と関係を形成できるよう育むためには、イベントやワークショップから就労に向けた研修講座や試用期間につなげていくことが求められる。仕事を広げる機会を提供することができれば、人口減少によって影響がある問題の解決策としてつながるのではないだろうか。さらに、新しいライフスタイルを求める人々によって、山梨県に新たなエンパワメントをもたらしていくであろう。

地方創生には地域社会における人と人との共生が求められる。共生が成り立たなければ「信頼」は生まれず、地域創生に結びつかないのではないだろうか。

しばらく私の二地域居住生活は続く予定だ。「信頼してこそ、人は尽くしてくれるもの」信玄公の言葉を受け止め、この先の山梨県を創っていききたいと思う。

